

あった。非喫煙群、禁煙群、喫煙群別にそれぞれの萎縮度別の割合を算出したところ、各群に差は認められなかったことから、非喫煙群、禁煙群、喫煙群の胃がん発生について胃粘膜萎縮の影響に差が無いものと推測された。

この集団における胃がん発生率は全体で100人年当たり0.21であり、ピークは60～64歳群で、100人年当たり0.35であった。

喫煙歴群別に胃がん発生率を見ると、非喫煙群は100人年当たり0.13、禁煙群は100人年当たり0.18、喫煙群は100人年当たり0.31と喫煙者の胃がん発生率は非喫煙者に比べ2.4倍高率であった。喫煙を続ける60～64歳群の胃がん発生率が最も高く100人年あたり0.58であった。また喫煙者では、非喫煙者や禁煙者で発がん者がいなかった50～54歳の若年者でも胃がん発がん者が認められた。

更に喫煙指数を見ると、喫煙指数が高いほど胃がん発生率が高い傾向が認められた。

これらの事から、50～69歳の男性の胃がん発生に喫煙が影響している事が示唆された。

【参考文献】

- 1) 喫煙と胃がん発症リスクとの関連について Yayoi Koizumi Int. J. Cancer:112, 1049-1055(2004)
- 2) 胃X線検査による胃がん危険度評価についての検討 JSGCS雑誌 2010 ; 48 : 344-354

【週刊タバコの正体】

2013/03 和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 24


- (No. 332) 第8話 時代の先頭
--「タバコを吸わない事が当たり前」の時代になりつつ? ある
- (No. 333) 第9話 タバコ消費と肺がん
--タバコの影響は遅れて現れる事も知っておいてほしい
- (No. 334) 第10話 来るのがわかっていたら
--3.11東日本大震災から2年 回避する手立て...
- (No. 335) 第11話 PM2.5
--中国からのPM2.5より飲食店内のPM2.5の方が...

URL:http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_2011.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙学会のHPでご覧下さい。
※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。



毎週火曜日発行



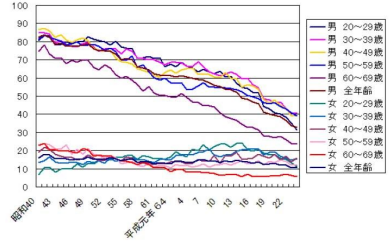
2013/1-3

Serial number 332

週刊 **タバコの正体**

第8話

「平成24年全国たばこ喫煙者率調査」(JT全国喫煙者率調査)によると、平均喫煙率は男性が32.7%、女性が10.4%だったそうです。この調査は40年以上前から行われているのですが、下のグラフを見れば、喫煙率の急降下ぶりは一目瞭然です。




年度	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	全年齢
24	男 31.5	40.4	39.0	39.0	28.5	32.7
	女 11.4	15.4	15.9	12.2	5.5	10.4

そして、年齢別の詳しい喫煙率を示した上の表を見て下さい。30～40歳代よりも20歳代の方が低いのがわかりますよね。つまり若い世代の喫煙者が減っているのです。この傾向は今後さらに増すでしょう。なぜなら、君たちのようにタバコの有害性の教育を受けた若者が増えているからです。

このままだと、「タバコを吸わないことが当たり前」の時代が来るのもそう遠くない気がします。すでに和工においては、ほとんどの生徒が「一生タバコは吸わない」と考えているのですからね。そう思うと君たちは時代の先頭に立っているのかも知れません。

産業デザイン科 奥田 恭久



In WAKO Since 2005